

支援を受けて自社のノウハウを認識 知財を生かして今後の事業拡大を目指す

本社 〒846-0002
佐賀県多久市北多久町大字小侍1988 - 10
TEL : 0952-75-3044 FAX : 0952-75-3066

URL <http://www.mukku.com/>
(同社の運営する「住まいの木工房むっく」のウェブサイト)

業務内容 建具、家具の製作、住宅の建築

設立年 平成7年6月

資本金 300万円

従業員数 1名



社長
倉富高鋭氏

現社長の父の代から建具の製作を行ってきた同社は、平成10年より、他の事業者とともに「住まいの木工房むっく」を立ち上げ、建具の製作のほか、家具の製作、住宅の建築を手掛けてきた。

同社は住宅の建築を手掛ける中で、杉の間伐材を利用した特殊な構造用木材「ウッディブリック」を用いた住宅の魅力に惚れ込み、現在、その魅力を生かした住宅作りに取り組んで事業の拡大を目指している。

■海外進出を前に、知財面に懸念

同社は元々、現社長である倉富氏の父が始めた建具店であり、木製のドアや窓枠の製作を行ってきた。しかし、既製品の建具が低価格で市場に多く流通するようになったため、建具の製作のみならず、家具の製作や住宅作りを手掛けるようになった。そのような状況下で、九州産の杉の間伐材を利用した特殊な構造用木材「ウッディブリック」を積み上げて住宅を作るウッディブリック工法に出会い、10年ほど前から同技術を使った住宅作りにも本格的に取り組んでいた。ウッディブリックを用いて建設された住宅は、断熱性、調湿性、耐震性に優れるほか、デザイン性にも優れており、佐賀県を中心に徐々に着工数が積み上がってきているという。

2015年の11月に開催された展示会にて、ウッディブリックを使った住宅作りの展示を行ったところ、とある国内企業から「共同でネパールに進出しないか」との打診を受けた。それまで海外での取引は経験がなかったものの、3ヶ月後には社長自らネパールに視察に行くなど、前向きに検討していたという。一方で、海外進出を前に、自社の商品が知的財産の面で無防備であることに不安を覚え、佐賀県の知財総合支援窓口の市丸氏に相談をしたところ、海外知的財産プロデューサーを紹介され、支援を受けることとなった。

■自社のノウハウに気付き

海外知的財産プロデューサーの支援を受ける前の状況

取材企業の声

知財についての支援、というと難しいものをイメージしていたが、毎回、自然な会話をする中で知財についての気付きを多く与えてもらった。そのような形態でアドバイスを受けることで、直面している問題にポジティブに取り組むことができた。当初、知財についての認識が全くなかった状態から考えると、自分でも驚くほどしっかりした理解ができるようになったと感じている。(社長 倉富氏)



くらどみのオフィス兼ショールーム外観

について、倉富氏は「知財についての意識が全くなかった」「自社にノウハウなんてないと思っていた」と振り返る。担当プロデューサーからの同社への支援は、海外進出に伴う知財リスクについて説明するとともに、同社が日々製品を作るにあたり蓄積されてきた知財に気付きを持ってもらうことから始まった。同社の製品及び製品を使った独自の工法には多くのノウハウがあり、そのノウハウを保護していく重要性を担当プロデューサーは強く感じたという。

同社は担当プロデューサーからの支援を受け始める前、ネパールへの進出を見据えて、すでに他社と秘密保持契約を結んでいたが、その契約の更新にあたり担当プロデューサーからのアドバイスを受け、そのアドバイスを基に、同社は、秘密として管理しなければならない内容の見直しを行うとともに、弁護士を交えて自ら契約書の内容を検討することができたという。

■ 自社ブランドの商標権を取得

担当プロデューサーからのアドバイスを受け、同社が次に取り組んだのが自社ブランドの商標権の取得である。同社は過去に自社ブランドのマークをデザインし、そのマークを商品やパンフレットに使っていたものの、商標権の登録を行なっていなかった。担当プロデューサーから商標の持つ役割やブランド価値について説明を受けることで、倉富氏は「マークを自分のものにする必要を感



特殊な構造用木材「ウッディブリック」
当木材を用いたウッディブリック工法により住宅を建築する

じた」という。同社は佐賀県工業技術センターの川口氏、佐賀県知財総合支援窓口の市丸氏の協力も受け、使用するマークを整理して商標出願に結び付けている。

このように、同社への支援は海外進出の話をきっかけにスタートしたが、担当プロデューサーが「海外に進出するためには国内での地盤固めをしっかりと行うことが重要」と語るとおり、同社は、ノウハウの管理や商標権の取得、活用といった内容のアドバイスを受け、日々の事業活動を知財面から見直して対策を行っている。今後も事業活動の中で生まれる知財を適切に管理、保護して活動を続け、海外進出にも対応できるよう備えを固めていく。

支援を振り返って

知財という言葉は知っていても、自らの事業と知財を結びつけて考えることができている企業は多くない。しかし、海外へ進出する企業は、知財を事業戦略に生かしていかなければならないと考えている。

今回のくらどみの支援においては、要所要所で事業と知財の関連性を示すことで、事業責任者である経営者自らが、自社の事業に知財を当てはめることができるようになった。本事例は「気付き」という視点で、良い事例であると思う。（海外知的財産プロデューサー 茂木裕之）

今後の 事業展開

ノウハウ管理についてアドバイスを受けた「ウッディブリック」について、現在はまだ売上は大きくないが、今後、販売の拡大とともに低価格化を行い、しっかりした事業の柱に育てていきたい。

将来的には「ウッディブリック」に特化した建材メーカーとして地位を確立し、海外での施工にも対応できるように準備していきたい。